

大学院進学感想

崔芸菲

私の留学経験を皆さんに共有できることをとても嬉しく思います。それが理工学科の後輩の皆さんに役立ち、より効率的に復習や準備ができればと思います。以下のように、三つの部分に分けてご説明します。

一、留学経験

大学では土木専門の水道処理工学を勉強しました。大学四年生のインターンシップで留学しようという考えが出てきましたが、卒業設計を完成してから留学のことを真剣に考え始めました。留学の着手はとても遅いと言えます。大学を卒業した後に留学仲介と連絡し、日本語学校の2020年の4月生として留学する予定でした。日本語学校を決め、日本語の勉強もスタートして、数か月間の勉強で2019年12月N2に合格しました。

コロナの影響で、予定通りに留学できませんでした。その代わりに、中国国内で日本の進学情報を調べ準備しておいて、2020年の夏にTOEICの成績を取りました。

幸いなことに、2020年10月から日本国が入国制限を一時解除し、同年11月亜細亜友之会外語学院に入学しました。入学して半年位で、日本語を勉強しながら、専門知識の勉強もしました。そして2020年12月N1に合格しました。

挑戦しようとする志望校の出願は大体7月上旬ぐらいで、研究計画書の修正や出願資料の準備などは、大澤先生のお陰で順調に仕上げることができました。

二、受験勉強

私の専攻は主に日本の大学院で土木工学に分類されます。しかし、構造力学やコンクリートなどの科目は、大学のカリキュラムでは必須科目ではないため、試験の準備では環境学分野にある研究科を選びました。

自分の専攻状況によって事前に進学の情報を集めたほうが良いです。それに加えて、志望校のホームページに載ってある過去問などを参考にして、学習プランを設計して下さい。試験準備の途中では、志望校の課程内容が難しすぎるなどの原因で、簡単に目標を諦めたり変更したりしないで下さい。

私の場合、出願した専攻は日本語の要件がそれほど高くありません（出願する時に日本語成績の提出は不要とされている）が、逆に英語能力の要求が厳しかったです。東京大学以外、ほとんどの大学は出願する際に、TOEICの成績提出が認められているので、TOEICは高得点が取りやすいため、TOEICの受験を何回もすることはおすすめです。TOEFLより準備しやすく、それ程時間がかからないです。実は、短期間でTOEFLの受験を準備しました。結局、会話と作文の成績が高く取れなかったため、80点未満でした。もしTOEFLの受験をする方がいれば、この二項目にもっと力を入れたほうが良いと思います。

研究計画書に関しては、出願した大学院が東大以外の場合、大学面接の焦点は研究計画書ではなく、大学の卒業研究にあります。

三、まとめと感想

私の受験勉強の経験に基づいて、以下のアドバイスがお役に立てば幸いです。

①準備は早ければ早いほど良い

大学で勉強した課程内容や卒業研究などを計画的に準備して、競争力が高くなると思います。遅くなっても志望校の過去問をちゃんと分析したうえで、準備した方がいいです。

②言語成績

日本語と英語に堪能であればあるほど良いです。日本語で問題を解答する人は、事前に日本語の書きの力を確実に身に付けた方が良いです。なお、専門用語なども時間をかけて覚えなければなりません。理工学の教授は英語が堪能で、もし教授と英語で流暢にコミュニケーションができれば最高です。

③ホームページ情報を活用し、過去問などを手に入れることができる

時間があれば、早めに志望校のホームページで過去問をダウンロードしておくことをおすすめします。ホームページの過去問の情報は通常わずか3年分で、毎年更新されます。2年前からホームページの情報を収集しておくと、5年分の過去問が入手できます。それは、出題方向の把握などに大きなメリットがあります。

最後に、亜細亜友之会外語学院の先生方々にとても感謝いたします。勉強面にしても、生活面にしても、お力を貸していただき、誠にありがとうございました。これから大学院受験に挑戦しようとする後輩の皆さん、自分の理想的な大学院に合格できるよう願っています。